

〇-6

慢性胃炎診断の読影状況報告

～胃 X 線画像診断結果の一致率調査～

一般社団法人 鶴岡地区医師会 荘内地区健康管理センター

○佐藤 賢、佐藤 詩穂、土門 祐介、齋藤 一広、齋藤 幸恵、佐藤 沙弥香、佐藤 貴也、菅原 翼、五十嵐 ちづる、佐藤 日出夫、御橋 慶治、南部 知子、佐藤 洋司、中目 千之、長島 義弘、三浦 二三夫、中村 秀幸、齋藤 壽一

【はじめに】

平成 28 年度よりトライアルとして胃部 X 線画像の読影でカテゴリー分類と慢性胃炎診断を導入した。さらに平成 29 年度からは受診者への慢性胃炎診断の結果通知を開始し、慢性胃炎を受診者に周知するためリーフレットを配布し啓蒙を図った。また、慢性胃炎と診断された受診者には内視鏡検査とピロリ菌感染検査・除菌を勧める内容のリーフレットを送付している。なお、胃の健康度診断（血液検査）は胃部 X 線検査のオプション検査として実施している。

結果連絡票（回報書）は 2 種類あり、①胃に所見があり要精密検査の受診者、②血液検査で陽性（B～D 群）の受診者と血液検査で陰性（A 群）だが X 線画像で慢性胃炎と診断された受診者に発行している。また、結果連絡票には精査時ヘリコバクターピロリ感染診断の結果を記載する欄を設け、精査時の状況を把握している。

【目的】

平成 29 年度胃がん検診受診者 26,587 名について、慢性胃炎診断（X 線画像による）の読影状況を把握するため、胃の健康度診断結果と結果連絡票の精査時ピロリ感染結果をもとに調査する。

【読影方法】

読影医師 32 名によるオープン・ダブルチェック方式

2 次読影の際は“1 次読影の所見とカテゴリー”が表示される。

【対象】

平成 29 年度胃がん検診受診者のうち、胃の健康度診断受診者 1,218 名および精査時にピロリ感染診断を実施した受診者 755 名の計 1,973 名。

【結果】

胃の健康度診断受診者：陰性（A 群）656 名、陽性（B～D 群）562 名

精査時にピロリ感染診断を実施した受診者：陰性 155 名、陽性 600 名

詳細については当日報告する。